

New!
ショップ



from
Paris

PRASLINE MAZET

MAISON DE LA PRASLINE MAZET メゾン・ドゥ・ラ・プラリヌ・マゼ

Text & Photo: Harue Suzuki

100年続く老舗の、歴史と未来を融合させたデザイン

フランスの地方都市、モンタルジ市で100年以上続いている老舗メゾン「MAZET (マゼ)」。店名に枕詞のように記されているアーモンドのお菓子「Prasline (プラリヌ)」で全国的に有名なこのお店が、昨年3月、パリの注目エリアのひとつ、マレ地区に新しくお店をオープン。インテリアとパッケージの両方で新たなイメージ展開をしている。



過去と未来を融合したショップ

マレ地区のなかでもパリ市庁舎からそう遠くない繁華街に位置するこのお店。立ち並ぶ周囲のお店やカフェなども自然に調和するごくシンプルな外観の内側には、メゾンの歴史がひと目で分かるような斬新な空間が広がっている。入ってまず右側が、1903年から続くモンタルジ本店を連想させるコーナー。オーク材を使ったネオゴシックスタイルの雰囲気も踏襲されていて、スタンドガラスの飾り窓や色絵タイルの床、そしてクラシックな彩色が施された梁天井など、いかにも老舗らしい伝統の重みが伝わってくるような造りだ。対する左側のコーナーはがらりと趣を変え、白とブラチナが基調色。

軽やかでピュアな光があふれる広々としたスペースは、未知数の可能性を秘めた未来の象徴のような趣。このように、過去と未来という二つの異なる時代のイメージをかたちにしてドッキングさせているのだが、本店の内装にも使われているモチーフである百合の文様を未来空間のほうにもさりげなく配し、いわば対極にあるような二つの世界の橋渡しする伏線のような効果を持たせてある。陰陽呼応するこの大胆なインテリアデザインを手掛けたのは、日本人デザイナーの米川淳氏。彼の設計による東京・丸の内内の「ECHIRE (エシレ)」ショップを、現在の「マゼ」の社長がとても気に入り、パリの新店もぜひ米川氏という経緯があるそうで、将来の日本出店も視野に入れての選択のよう。フランスと日本、この二つの異なる文化を融合させる次なるプロジェクトのための試金石ともいえそうだ。